

2025年6月作成  
(2025年3月末基準)

対象ファンド  
【外国株式等】

 **MUFG** 三菱UFJアセットマネジメント株式会社

# プロダクトガバナンスレポート

公募ファンドの運用について



# CONTENTS もくじ

---

● ごあいさつ	2
● 会社体制(会社情報・各種ガバナンス体制)	
経営ビジョン／プロダクトガバナンス・ポリシー	3
コーポレートガバナンス体制	4
純資産総額／会社収益	5
運用哲学／運用体制	6
開示・情報提供に関する取り組み	7
バリューマネジメント活動	8
ファンド提供価値の評価・改善対応フロー	9
● カテゴリごとのファンド運用状況	
当レポートでご報告するファンドについて	10
01 外国株式・世界型	11
02 外国株式・世界型(円ヘッジ)	13
03 外国株式・世界型(除く日本)	14
04 外国株式・世界型(除く日本、円ヘッジ)	17
05 外国株式・米国型	18
06 外国株式・米国型(円ヘッジ)	21
07 外国株式・新興国型・グローバル	22
08 外国株式・新興国型・アジア	23
09 外国株式・中国圏型	24
10 外国株式・インド型	25
11 外国株式・特定テーマ/セクター型	26
12 株式・その他	29
13 外国REIT・世界型	30
14 外国REIT・世界型(円ヘッジ)	33
15 外国REIT・米国型	35
16 外国REIT・特定地域/国型	36
17 REIT・その他	38



## ごあいさつ

私たちの経営ビジョン“「あなた」と「社会」の豊かな未来に貢献する”には、お客さまの資産形成・資産運用に貢献したい、持続可能な社会の実現に貢献したい、という想いを込めています。

私たちは、当社が果たすべきフィデューシャリー・デューティーを常に探求していく不断の取り組みこそが、“お客さまの資産形成・資産運用や持続可能な社会の実現に貢献する”ことに繋がるとの考えから、フィデューシャリー・デューティーを当社役職員に求められる思考様式・行動様式として位置づけ、全役職員でこれに取り組んでいます。

商品・サービスの更なる向上に向けた取り組みの進捗状況や、社員研修によるお客さま本位の姿勢の定着度合いなどをモニタリングするため、フィデューシャリー・デューティー推進委員会を定期的で開催しています。

また、当社では経営会議傘下に社外取締役も参加する「プロダクトガバナンス・サブコミティ」（以下「PGSC」）を設置してまいりましたが、フィデューシャリー・デューティーとプロダクトガバナンスに係る取り組みの監督機能強化のため、2024年8月付でPGSCを廃止し、取締役会傘下にフィデューシャリー・デューティー／プロダクトガバナンス諮問会議を新たに設置しました。本諮問会議を社外取締役主体の会議体とすることで、これまで以上に監督的な視点を強化し、お客さま本位の業務運営やプロダクトガバナンスに関する取り組みの更なる深化を進めております。

当レポートは、当社のプロダクトガバナンス態勢についてご説明することに加えて、プロダクトガバナンスの視点で、当社が設定・運用する公募ファンドについて、お客さまにコストに見合うリターンを提供できているか、商品性に合致した運用が継続可能か等を定期的に検証し、個別ファンドごとに品質管理を行った結果をご報告させていただくものです。

お客さまや社会が求める未来は、価値観や時代などに応じて変化しますが、私たちは、いつの時代も資産運用を通じてより良い未来づくりにアセットマネジメント会社として貢献してまいりたいと考えております。

引き続き、三菱UFJアセットマネジメントをご愛顧賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

取締役社長  
横川 直



# 経営ビジョン／プロダクトガバナンス・ポリシー

当社が投資信託を通じ、お客さまの大切なご資金をお預かりするという役割の重要性と、社会に果たすべき責任を踏まえ、当社の“社会における存在意義”を定義した「経営ビジョン」を定めています。経営ビジョンを企業活動の拠り所としながら、特に投資信託をご活用いただくお客さまの目線に立った商品・サービスの提供・品質向上に向けて重視する事項を「プロダクトガバナンス\*・ポリシー」として定め、お客さま本位の業務運営に取り組んでいます。

\*「プロダクトガバナンス」とは、お客さまへ良質な商品（プロダクト）・サービスを提供するために、商品の組成・運用において適切な運営・モニタリング・品質管理を行うことを指します。

## 経営ビジョン

社会においてこうありたいという第三者的な視点に立ち、資産運用を社会インフラのひとつとして根付かせ、資産運用の拡大と共に成長していくとの想いを経営ビジョンとして策定しています。

### 「あなた」と「社会」の豊かな未来に貢献する

わたしたちは、資産運用を通じて「あなた」と「社会」をつなぎ、より良い未来に貢献します。

三菱UFJアセットマネジメントは、プロフェッショナルとして、お客さまの大切なご資金を運用する資産運用会社です。わたしたちの「経営ビジョン」には、お客さまの資産形成・資産運用に貢献したい、持続可能な社会の実現に貢献したい、という想いが込められています。

## プロダクトガバナンス・ポリシー

プロダクトガバナンスにおいて、お客さまの目線を重視する考え方のもと、大切にしていること、重視していることを「商品性」「運用管理」「開示」の3つの側面からポリシーとして制定し、更なる品質向上に取り組んでいます。



### 商品性

現在および将来、当社の投資信託を保有いただくお客さまのニーズに沿った最適な商品の組成・提供を目指します

- 提供価値（ファンドの目的・特色）の明確化



### 運用管理

お客さまにご負担いただくコストに見合うリターンを確保できているかモニタリングすることにより、投資信託を通じた提供価値の維持を目指します

- 信託報酬（運用管理費用）等控除後の運用成果のモニタリングを徹底
- 運用成果の追求に向けた取組みの徹底
- ファンドの目的・特色が十分提供できていない場合、適時適切に対応



### 開示

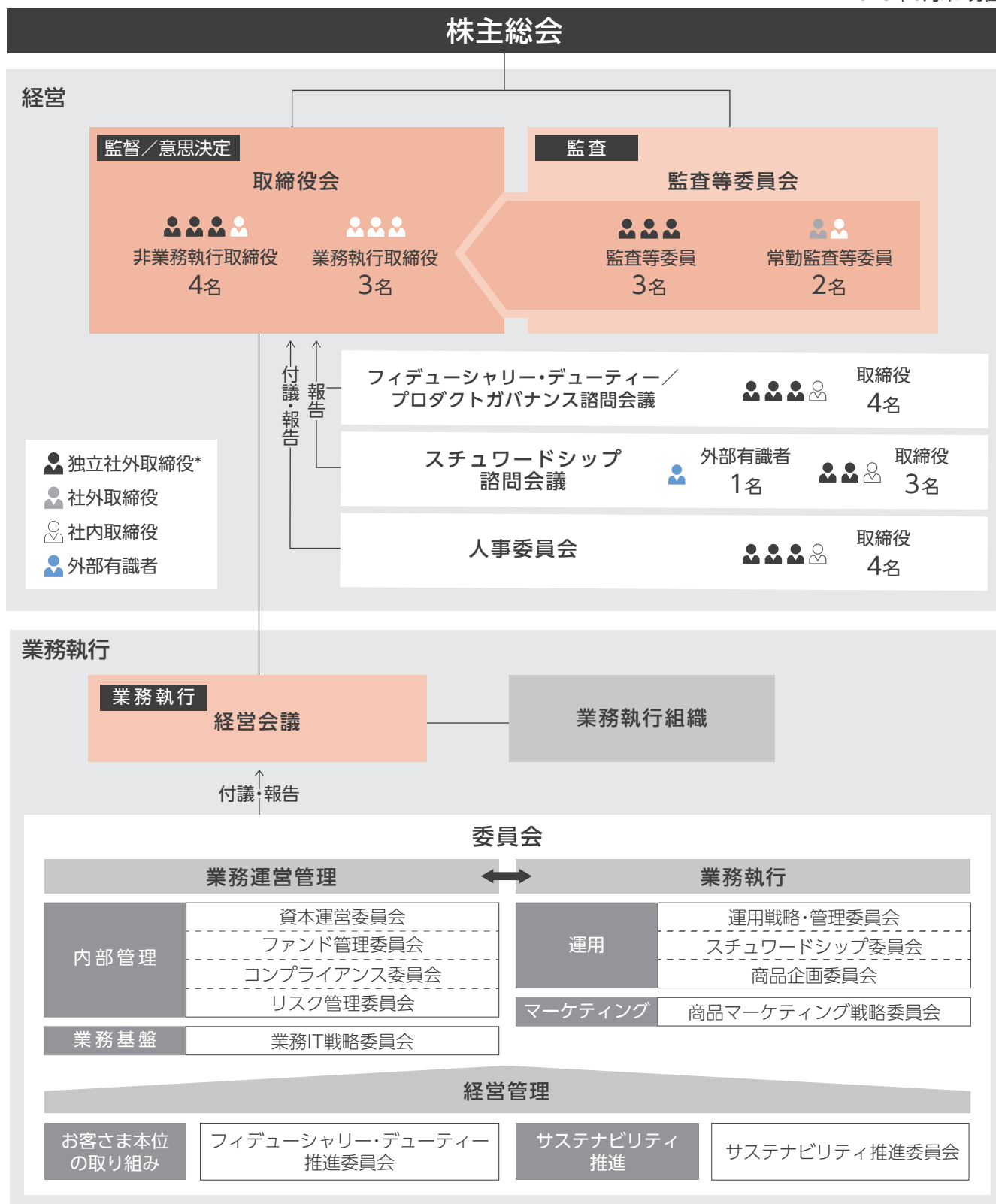
お客さまの投資判断に必要な情報をご理解いただきやすく提供することを目指します

- 正確な情報をわかりやすく提供
- 様々な手段・方法で、タイムリーに情報を提供

# コーポレートガバナンス体制

適切なプロダクトガバナンスには、適切なコーポレートガバナンス体制が必須条件と考えております。当社では経営の監督・意思決定を行う取締役会と、それを監査する監査等委員会のもと、経営会議傘下で業務執行に当たっています。外部目線の導入が特に必要と考える会議体には、社外取締役・外部有識者に参加いただき、コーポレートガバナンスの高度化に努めています。

2025年6月末 現在

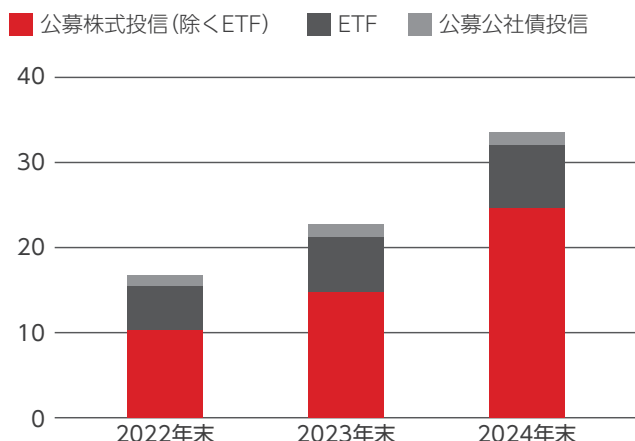


(\*) 当社で定める「社外取締役の独立性判断基準」に基づき当社から独立性を有している社外取締役

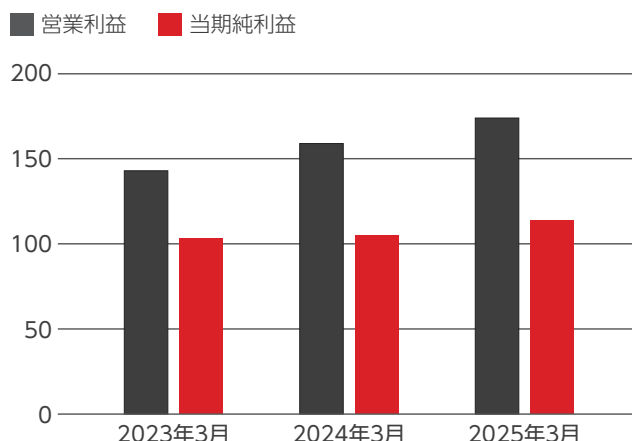
# 純資産総額／会社収益

ファンド運営の前提となる会社の継続性に関しまして、当社ファンドへのお客さまからのご支持に加えて資産運用の浸透・拡大も受け、2024年末時点の当社公募投資信託純資産総額は33.5兆円となりました。また、収益状況は安定的に推移しております。

当社公募投資信託純資産総額の推移 (兆円)



当社収益状況の推移 (億円)



## TOPICS

### ●フィデューシャリー・デューティー／プロダクトガバナンス (FD/PG) 諮問会議 運営状況

フィデューシャリー・デューティー (お客さま本位の業務運営) とプロダクトガバナンス (商品の組成・運用に対する適切な運営・モニタリング・品質管理) に係る取り組みの監督機能強化のため、取締役会傘下へ「FD/PG諮問会議」を設置 (2024年8月) しております。本諮問会議は、監督的な視点の下でフィデューシャリー・デューティーやプロダクトガバナンスに関する取り組みの更なる深化を進めることを目的としています。

2024年度では、2025年2月にFDをテーマに、2024年11月および2025年3月にPGをテーマに開催し、下記内容等について社外取締役に意見聴取を行い、今後更に注力していくべき事項や、課題の確認などを行っています。

2025年度も引き続き、取組状況に係る議論を通じ、お客さま本位の業務運営の実現・高度化のための取り組みを進めて参ります。

### ●本諮問会議で取り扱ったテーマ (抜粋)

【FD】利益相反管理について  
「利益相反管理方針」を、お客さまにより分かりやすい内容とするための見直し方針など

【PG】ファンド提供価値の維持・向上について  
提供価値の維持に向け、異常を早期に検知し対応する社内体制の整備・運営状況など

【PG】お客さま向け情報開示について  
お客さまの投資判断の一助となること、当社運用体制に対する理解を深めていただくことを目的とした運用関連の開示情報拡大方針など

【PG】プロダクトガバナンスレポートについて  
本レポートを、お客さまがより読みやすく・分かりやすい内容とするための見直し方針など (ファンドの一覧性・検索性向上の工夫など)

# 運用哲学／運用体制

当社の運用プロフェッショナルが、付加価値の創造、的確なリスク管理、規律ある運用プロセスなどの運用哲学に基づき、投資いただいているお客さまに最良の投資成果をお届けできるように努めています。運用部門では、お客さまに良質な商品を継続的に提供すべく、組織的かつ各運用者が高いオーナーシップを発揮する運用体制を構築し、サステナブル投資の観点からも社会課題解決に資するスチュワードシップ活動に取り組んでおります。また、株式や債券のような伝統的資産からの運用ニーズの多様化が進む中で、2024年10月にMUFGグループ内にある証券化商品などクレジット領域の投資機能の一部を当社のクレジット運用部に移管し、2025年1月より当該領域の運用サービスの提供を開始しました。お客さまにご満足いただける投資成果を安定的かつ継続的に提供することを目指しています。

## 運用哲学

### 01 付加価値の創造

最良の運用成果を得るためには、徹底した調査・分析と適切な運用判断による付加価値の創造が必要です。私たちは、徹底した情報収集、詳細な分析、適切な判断を通じて付加価値の獲得を目指します。

### 02 的確なリスク管理

運用においては、意図したリスクを取り、意図しないリスクを排除することが必要です。私たちは、的確なリスク管理を実践し、効率的に付加価値の獲得を目指します。

### 03 規律ある運用プロセス

規律と一貫性のあるプロセスが、運用の質的向上につながります。私たちは、チームワークを重視し、かつ「Plan→Do→See」に裏打ちされた規律あるプロセスによって、運用の一貫性を確保します。

### 04 適切な情報開示

お客さまに信頼していただきながら、ご期待に沿った資産運用を行うためには、情報の開示が不可欠です。私たちは、運用の状況と運用に対する考え方を適切にお伝えすることにより、お客さまの信頼獲得を目指します。

## 運用体制

(2025年4月末現在)

運用部門 部門長 高鍋 朗 運用経験年数 31年					
	運用部	運用責任者 (運用経験年数)	運用対象	FM人員 (運用経験年数)	担当運用資産* (十億円)
運用担当	戦略運用部	加納 良樹 (28年)	主としてバランス型ファンド・計量的手法等を利用したファンドの運用	20名 (平均12年)	500
	株式運用部	森 博 (28年)	主として内外株式の運用	45名 (平均18年)	1,085
	債券運用第一部	氏原 圭作 (36年)	主として内外債券の運用	9名 (平均22年)	720
	債券運用第二部	古田 憲司 (27年)	主として内外債券の運用	23名 (平均13年)	3,288
	クレジット運用部	永田 幸佐 (17年)	主としてクレジット関連商品の運用	4名 (平均8年)	4,794
	インデックス運用部	荻野 太陽 (17年)	主として全資産のインデックス運用	26名 (平均9年)	29,679
	外部委託運用部	笹井 泰夫 (29年)	主として外部運用会社との提携ファンドの運用	31名 (平均9年)	7,327
運用企画部	運用に関する施策企画、運用モニタリングおよびファンドマネジャーのパフォーマンス評価				
サステナブル投資推進部	サステナブル投資に関する業務および施策企画				
トレーディング部	有価証券等の発注およびファンド余資運用				
商品開発部	商品開発に関する企画立案、投資信託等に関わる商品開発および分配金・償還・品質維持・品質改善管理、商品関連契約				

\*国内籍の公募および私募投信、投資一任・投資助言を対象に集計。助言は投資助言の内容・範囲等にかかわらず、顧客資産の額(契約簿価)を前提とした契約を集計

# 開示・情報提供に関する取り組み

プロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、お客さまの投資判断に必要な情報をご理解いただきやすく提供することを目指して、各種開示・情報提供に取り組んでおります。個別ファンドの運用状況に関する定期的・日常的な情報提供について、適時・適切な実施に努めているほか、開示・情報提供に関する、全社的あるいはファンドを横断した高度化・拡充についても取り組みを進めております。当ページではそれらの取り組みの一例をご紹介します。

## 取り組み事例 運用体制に係る情報の開示強化

当社はこれまでホームページ内の個別ファンドページにて、運用担当部や運用主担当者・責任者名に関する開示を行ってまいりましたが、2024年12月に、当社の運用体制をお客さまに対してよりわかりやすくお伝えすることを目的に、[運用体制ページ](#)における各運用部および運用チームに関する開示を拡充しました。

### 1. 運用部紹介

各運用部が担当する資産クラスや運用戦略、運用体制（運用者数/平均運用経験年数）、責任者である部長の経歴についてご紹介しております。

### 2. 運用チーム紹介

運用部配下に運用チームを組織している場合には、運用チームの責任者（チームリーダー）の経歴や、運用において大切にしていること、担当している代表ファンドについてご紹介しております。

#### 開示サンプル

株式運用部

2024年10月1日現在

株式運用部は、内外株式のアクティブ運用を担当しています。アクティブ運用とは、TOPIXやS&P500といった目安となる指数（ベンチマーク）を上回る成績（超過収益）を目指す運用スタイルのことです。我々は、他の市場参加者よりも相対的に優れた情報収集力と分析力を持ち、困難な局面においても冷静かつ的確な判断を下すことで超過収益の獲得が可能であると信じています。運用にあたっては、投資哲学ごとにチームを構成しており、各チームは長期で魅力的なリターンを提供するという目標のために、情熱と不断の努力をもって運用を行っています。

部署概要

運用者数 **42**人

平均運用経験年数 **19**年

部長紹介

プロフィール

1991年に日系生命保険会社に入社し、国内株式及び欧米株式運用、米国市場で米国株式運用を担当。2008年に当社の前身の証券投資顧問に入社し、アジア株式及び欧米株式運用を担当。その後、香港現法社を経て、2023年に株式運用部長に着任。

運用経験年数: 27年

チームリーダー紹介

写真をクリックすると担当者の詳細が表示されます

日本株クロス戦略 (チーム小島)

日本株コアバリュー戦略 (チーム徳澤)

日本株オポチュニティ戦略 (チーム友利)

海外株クロス戦略 (チーム西)

※ 運用者数、平均運用経験年数、運用経験年数は2024年10月1日基準

## 取り組み事例 AI (人工知能) を搭載したチャットボットサービス開始

これまで、電話、インターネット、よくあるご質問(FAQ)を通じてお客さまのお問い合わせにお応えしてまいりましたが、お客さまの自己解決ニーズの高まりを受け、さらに充実したサポート体制を構築するため、2025年3月から、新たなサービスとしてお客さま問い合わせチャンネルに「チャットボット\*」を導入しました。本サービスの導入により、24時間365日、当社ホームページ上でお客さまからの問い合わせに自動で即時回答が可能となります。

なお、チャットボットには生成AIによる対応品質の改善機能を搭載しております。検索ログからお客さまにとって「役に立たなかった」回答を抽出し、その回答に対する改善提案をAIが自動で作成し、対応品質の改善につなげます。AI技術を活用した改善サイクルを構築することで、サービス開始後も回答精度を継続的に高めるとともに、さらなる利便性向上を目指し、お客さまニーズにお応えできるよう努めてまいります。

\*チャットボット(Chatbot)とは、「チャット(会話)」と「ロボット(bot)」を組み合わせた言葉で、会話形式で問い合わせに自動応答するツールのことです。

# バリューマネジメント活動

プロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、ファンド提供価値の維持・向上へ継続的に取り組んでいます（バリューマネジメント活動）。運用・商品担当部署においてはファンドの各種運営とともに、ファンドの品質管理・改善を自律的に行っております。それに加え、バリューマネジメント統括部署においてファンド提供価値の評価を行い、必要に応じて運用あるいは商品性の改善を促すなど、お客さまの信頼に応える商品提供を心掛けております。

## お客さまの信頼に応える商品提供

### バリューマネジメント活動 (ファンド提供価値の維持・向上への取り組み)

#### 運用・商品担当部署による 自律的な品質管理

運用状況のモニタリング・  
商品性の確認



日常的な品質改善

#### バリューマネジメント統括部署が 指揮する組織的な品質管理

ファンド提供価値の評価



要改善ファンドの改善\*・  
フォローアップ

\*改善策の立案・実行はバリューマネジメント統括部署からの指示に基づき、運用・商品担当部署が行います。



# ファンド提供価値の評価・改善対応フロー

当社が設定・運用する公募ファンド(MRF、単位型を除く)を対象に、ファンド提供価値の評価を行います。その結果、運用や商品性に改善を要すると考えられるファンド(要改善ファンド)については改善策を策定します。ファンド提供価値の評価・改善対応は以下のフローに基づいて行っており、当レポートでは、評価結果および改善対応の状況についてご報告いたします。

## STEP 01

### パフォーマンス評価

- 当社が設定・運用する公募ファンド(MRF、単位型を除く)について、コスト控除後のリターン\*<sup>1</sup>を用いて、当社ファンドと同じカテゴリ\*<sup>2</sup>に所属する競合他社ファンドのなかでの相対的な順位を確認します。
- 競合他社ファンドとの比較は5年、10年、設定来などの複数期間\*<sup>3</sup>で行います。

\*1 お客さまにご負担いただくコストに見合うリターンを確保できているか確認するため、分配金再投資換算の基準価額を使って信託報酬(運用管理費用)等控除後のリターンを算出します。

\*2 恣意性を排除するため、外部評価機関であるMorningstarによるモーニングスター・カテゴリを使用します。モーニングスター・カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

\*3 インデックスファンドについては、特定指数と同じ値動きを目指す商品性であること等から、対象指数との期間1年の連動性も含めて評価します。

## STEP 02

### ファンド提供価値の評価

- STEP1のパフォーマンス評価において、パフォーマンスの相対順位が一定水準以下となる競合他社比で劣後しているファンドについて、多角的な視点からより詳細な分析を行います。
- パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性などの分析を行い、お客さまにご負担いただいたコストに見合うリターンが提供できているか、商品性に合致した運用が継続可能かなどの観点からファンド提供価値を評価します。

## STEP 03

### 要改善ファンドの特定・改善策の検討

- STEP2の分析により、運用や商品性に改善すべき課題が特定された場合には、ファンド提供価値の向上を目的として、当該課題を解決すべく改善策を検討します。

## STEP 04

### 要改善ファンドのフォローアップ

- STEP3で策定した改善策が効果を発揮し改善が図られているかモニタリングを行い、お客さまに十分な価値提供ができているか確認できるまでフォローアップを継続します。
- 改善策やその後の進捗状況については、当レポートでお客さまに開示します。

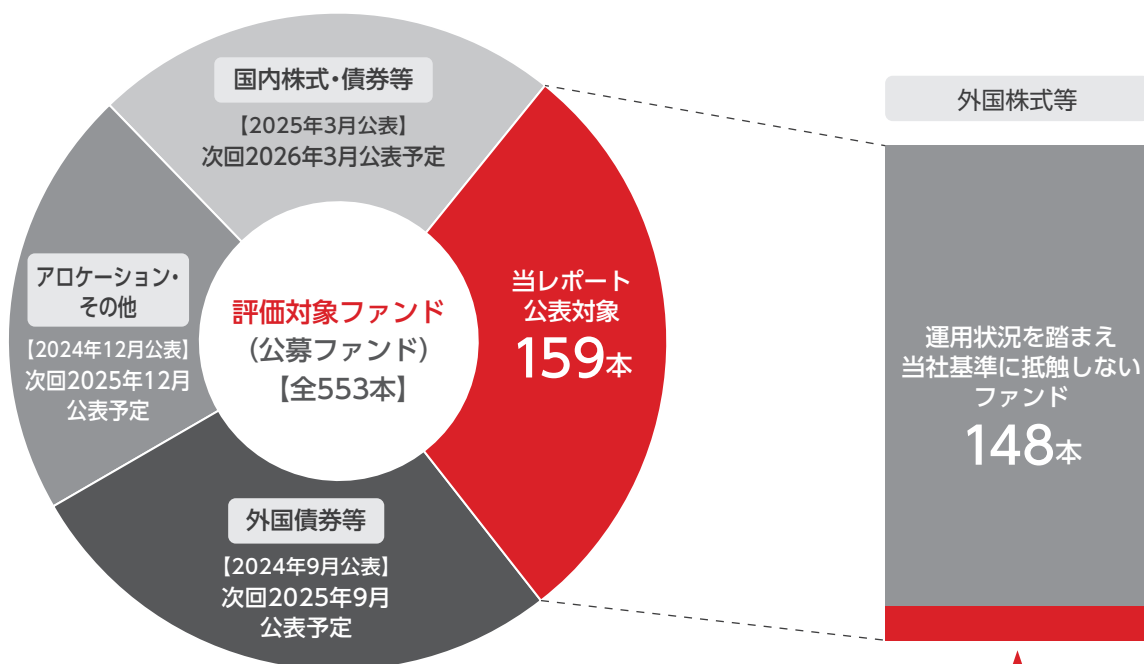
# 当レポートでご報告するファンドについて

当レポートでは評価対象ファンドを「国内株式・債券等」、「外国株式等」、「外国債券等」、「アロケーション・その他」の4つに分類し、各分類ごとに順次公表いたします。今回は「外国株式等」に分類する159本のファンドを対象とし、評価した結果、以下11本のファンドについて要改善ファンドに該当すると判断いたしました。分析結果や改善に関する取り組み状況については、モーニングスター・カテゴリ別に次ページからご説明いたします。

※「国内株式・債券等」、「外国株式等」、「外国債券等」、「アロケーション・その他」の分類はモーニングスター・カテゴリを基に当社が行います。モーニングスター・カテゴリで外国株式、外国REIT、株式・その他、REIT・その他に属するファンドを「外国株式等」に分類しています。

※各ファンドの分析はモーニングスター・カテゴリ内における比較により行います。各ファンドの所属カテゴリや公表予定時期については当社ホームページ内[プロダクトガバナンスレポートページ](#)上のエクセルファイルをご確認ください。

※モーニングスター・カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。



## 要改善ファンド 11本

ファンド名	設定日	掲載ページ
三菱UFJ<DC>海外株式オープン	2001/12/07	<a href="#">16</a>
三菱UFJ 米国配当成長株ファンド<為替アクティブヘッジ>(愛称:ザ・レジェンド)	2013/12/09	<a href="#">20</a>
米国エネルギーMLPオープン(毎月決算型) 為替ヘッジあり(愛称:エネルギー・ラッシュ)	2013/06/28	<a href="#">28</a>
米国エネルギーMLPオープン(毎月決算型) 為替ヘッジなし(愛称:エネルギー・ラッシュ)	2013/06/28	<a href="#">28</a>
ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2004/07/02	<a href="#">32</a>
ワールド・リート・オープン(資産成長型)(愛称:ワールド・リートN)	2013/12/11	<a href="#">32</a>
ワールド・リート・オープン(1年決算型)	2008/11/04	<a href="#">32</a>
ワールド・リート・オープン(毎月決算型) 為替ヘッジあり	2017/01/20	<a href="#">34</a>
ワールド・リート・オープン(資産成長型) 為替ヘッジあり(愛称:ワールド・リートヘッジN)	2017/09/12	<a href="#">34</a>
国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型)円コース(毎月決算型)	2013/09/20	<a href="#">37</a>
国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型) 為替ヘッジなしコース(毎月決算型)	2013/09/20	<a href="#">37</a>

# 01 外国株式・世界型

対象ファンド数 当社22ファンド／業界全体254ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド22本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。  
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
3.2	11.0	19.9	8.9	1.36

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

世界の株式を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。このカテゴリに分類されるファンドは主に北米、欧州、アジアの各地域の先進国に分散投資を行う。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS Slim 先進国株式(含む日本) <オール先進国>	2024/10/25	29	—	■
2	eMAXIS Slim 全世界株式(3地域均等型)	2018/04/03	212	—	■
3	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	2018/10/31	54,121	—	■
4	MAXIS 全世界株式(オール・カントリー) 上場投信	2020/01/08	603	—	■
5	つみたて全世界株式	2020/03/06	709	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・世界型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

## ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
1	<DC>ベイリー・ギフォード ESG世界株ファンド(愛称:<DC>ポジティブ・チェンジ)	2020/08/31	24	—	■
2	<DC>ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド	2019/04/05	341	—	■
3	外国株式アクティブファンドセレクション(ラップ専用)	2019/01/28	38	—	■
4	グローバル株式インカム(毎月決算型)	2005/11/11	47	—	■
5	先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型)	2016/02/09	542	—	■
6	先進国好配当株式ファンド(年2回決算型)	2016/02/09	116	—	■
7	ビルドアップ型 MSグローバル・プレミアム株式(為替ヘッジなし)2020-11(限定追加型)	2020/11/20	82	—	■
8	ビルドアップ型 MSグローバル・プレミアム株式(為替ヘッジなし)2023-02(限定追加型)	2023/02/17	77	—	■
9	ビルドアップ型 ベイリー・ギフォード インパクト投資ファンド2021-04(限定追加型)(愛称:ビルドアップ型 ポジティブ・チェンジ)	2021/04/06	9	—	■
10	ベイリー・ギフォード インパクト投資ファンド(愛称:ポジティブ・チェンジ)	2019/06/17	939	—	■
11	ベイリー・ギフォード インパクト投資ファンド(予想分配金提示型)(愛称:ポジティブ・チェンジ)	2021/04/06	178	—	■
12	ベイリー・ギフォード世界成長企業戦略/SMT、LN外国投資証券ファンド(愛称:クロスオーバー・グロース)	2021/09/13	381	—	■
13	ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド(愛称:ロイヤル・マイル)	2019/01/31	852	—	■
14	ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド(予想分配金提示型)(愛称:ロイヤル・マイル)	2021/01/19	84	—	■
15	モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(隔月決算型)(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	2023/11/30	4	—	■
16	モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジなし)	2012/02/17	3,675	—	■
17	モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	2020/10/21	1,092	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・世界型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

# 02 外国株式・世界型(円ヘッジ)

対象ファンド数 当社5ファンド/業界全体67ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド5本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
▲0.3	1.9	10.7	5.6	1.57

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

世界の株式を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。また、原則として日本円以外の通貨は為替ヘッジを行う。このカテゴリに分類されるファンドは主に北米、欧州、アジアの各地域の先進国に分散投資を行う。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

### ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり	2017/02/21	1	—	■
2	先進国好配当株式ファンド(年2回決算型) 為替ヘッジあり	2017/02/21	1	—	■
3	モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン<隔月決算型>(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型	2023/11/30	0.3	—	■
4	モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジあり)	2012/02/17	519	—	■
5	モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型	2020/10/21	42	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・世界型(円ヘッジ) カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

# 03 外国株式・世界型(除く日本)

対象ファンド数 当社16ファンド/業界全体152ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド16本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド1本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

過去1年	リターン(%)			コスト(%)
	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
5.3	13.5	22.8	11.1	0.85

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

日本を除く世界の株式を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。このカテゴリに分類されるファンドは主に北米、欧州、アジアの各地域の先進国に分散投資を行う。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS Slim 先進国株式インデックス	2017/02/27	8,368	—	■
2	eMAXIS Slim 全世界株式(除く日本)	2018/03/19	6,306	—	■
3	eMAXIS 先進国株式インデックス(除く日本)	2009/10/28	1,045	—	■
4	eMAXIS 全世界株式インデックス(除く日本)	2010/07/20	632	—	■
5	MAXIS 海外株式(MSC I コクサイ) 上場投信	2010/11/22	256	—	■
6	つみたて先進国株式	2017/08/16	3,279	—	■
7	ファンド・マネジャー(海外株式)	2007/10/31	0.02	—	■
8	三菱UFJ DC海外株式インデックスファンド	2006/05/15	2,442	—	■
9	三菱UFJ <DC>外国株式インデックスファンド	2001/12/05	566	—	■
10	三菱UFJ DC先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド	2021/10/29	13	—	■
11	三菱UFJ DC年金インデックス(先進国株式)	2018/09/26	417	—	■
12	三菱UFJ 外国株式インデックスファンド	2004/06/22	220	—	■
13	ラップ向けインデックス f 先進国株式	2021/04/16	207	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・世界型(除く日本)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

## ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
1	海外株式セレクション(ラップ向け)	2017/03/27	528	—	■
2	三菱UFJ <DC>海外株式オープン	2001/12/07	185	●	■
3	三菱UFJ 海外株式オープン	2000/08/11	31	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。  
各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・世界型(除く日本)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

## 三菱UFJ <DC>海外株式オープン

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。  
<https://www.am.mufg.jp/fund/928204.html>

### 1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)をベンチマーク(運用成果の目標基準)とし、中長期的に同指数を上回る投資成果を目指します。
- 外国株式マザーファンドを通じて、主に日本を除く世界主要国の株式に投資します。外国株式マザーファンドの運用の指図に関する権限は、JPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッドに委託します。
- 超過収益の源泉を主として銘柄選択におき、独自の企業調査に基づくボトムアップの銘柄選択でアクティブ運用を行います。銘柄選択に当たっては、長期の企業収益予想に基づくバリュエーション(株価評価)モデルを用います。
- 原則として、為替ヘッジは行いません。

### 2 運用状況の振り返り

- 下表に記載の運用期間において、カテゴリ平均やベンチマークであるMSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)を下回る投資成果となりました。
- 設定から2024年8月25日まではブラックロック・インベストメント・マネジメント(UK)リミテッドのもと健全な財務体質、積極的な配当政策などに着目し運用を行ってまいりましたが、運用手法の特性上、ベンチマークよりも保守的な銘柄構成となる傾向が強く、ベンチマークを下回る結果となりました。
- 2024年8月26日からはJPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッド(以下、JPMアセットUK)のもと独自の企業調査に基づきボトムアップの銘柄選択による運用を行っております。

### 3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 中長期で安定的にベンチマークを上回ることが出来るよう多くの運用会社を調査し、定量面、運用プロセス、運用体制、現地運用者との面談などを通じた定性面の調査結果を考慮し、JPMアセットUKを選定、異議申立を経て2024年8月26日に委託先の変更を致しました。
- また、委託先変更とともに、信託報酬率(税込、年率)を1.892%から1.837%へ引き下げました。
- JPMアセットUKへの委託先変更後は、超過収益の主な源泉を銘柄選択におき、独自の企業調査に基づくボトムアップアプローチによって超過収益の獲得を目指す運用を行っております。今後は、JPMアセットUKと密にコミュニケーションを取り、引き続きパフォーマンス改善効果についてモニタリングを実施してまいります。

#### パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、外国株式・世界型(除く日本)カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンやベンチマークであるMSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)を多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJ <DC>海外株式オープン	2001/12/07	185	2.6	10.4	17.5	6.5	5.2	1.92
外国株式・世界型(除く日本) カテゴリ平均			5.3	13.5	22.8	11.1	7.4	0.85
MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)			6.3	14.6	24.1	12.2	8.7	

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮していません。

※外国株式・世界型(除く日本)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)は、外国株式市場の値動きをご説明するために記載しており、当ファンドのベンチマークです。指数については巻末の【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

# 04 外国株式・世界型(除く日本、円ヘッジ)

対象ファンド数 当社3ファンド／業界全体37ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド3本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
1.3	1.8	11.9	6.5	0.78

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

日本を除く世界の株式を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。また、原則として日本円以外の通貨は為替ヘッジを行う。このカテゴリに分類されるファンドは主に北米、欧州、アジアの各地域の先進国に分散投資を行う。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	つみたて先進国株式(為替ヘッジあり)	2017/08/16	27	—	■
2	ヘッジ付先進国株式インデックス・オープン(ラップ向け)	2022/01/27	45	—	■
3	ラップ向けインデックス f 先進国株式(為替ヘッジあり)	2022/01/06	163	—	■

### ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・世界型(除く日本、円ヘッジ)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

# 05 外国株式・米国型

対象ファンド数 当社18ファンド／業界全体231ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド18本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド1本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
2.7	12.6	22.0	11.1	1.11

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

米国の株式を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。このカテゴリに分類されるファンドは、カナダの株式に一部のエクスポージャーを持つこともある。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS NASDAQ100インデックス	2021/01/29	1,401	—	■
2	eMAXIS NYダウインデックス	2013/08/07	658	—	■
3	eMAXIS S&P500インデックス	2020/12/14	1,027	—	■
4	eMAXIS S&P500クオリティ高配当インデックス	2023/01/12	45	—	■
5	eMAXIS Slim 全米株式	2023/09/15	163	—	■
6	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	2018/07/03	64,755	—	■
7	MAXIS NYダウ上場投信	2023/03/09	77	—	■
8	MAXISナスダック100上場投信	2021/02/24	259	—	■
9	MAXIS 米国株式(S&P500)上場投信	2020/01/08	829	—	■
10	NYダウ・インデックスファンド(為替ヘッジなし)	2017/04/24	424	—	■
11	つみたて米国株式(S&P500)	2020/03/06	1,317	—	■
12	三菱UFJ 米国配当成長株ファンド<為替ヘッジなし>(愛称:ザ・レジェンド)	2013/12/09	347	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・米国型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

## ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
1	アメリカン・ニュー・ステージ・オープン	2011/11/01	74	—	■
2	次世代米国代表株ファンド(愛称:メジャー・リーダー)	2013/05/28	1,644	—	■
3	米国IPOニューステージ・ファンド<為替ヘッジなし>(資産成長型)	2019/11/15	157	—	■
4	米国IPOニューステージ・ファンド<為替ヘッジなし>(年2回決算型)	2019/11/15	45	—	■
5	三菱UFJ NASDAQオープン Bコース	1996/08/01	438	—	■
6	三菱UFJ 米国配当成長株ファンド<為替アクティブヘッジ>(愛称:ザ・レジェンド)	2013/12/09	43	●	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。  
各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・米国型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

# 三菱UFJ 米国配当成長株ファンド<為替アクティブヘッジ> <愛称:ザ・レジェンド>

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

<https://www.am.mufg.jp/fund/260912.html>

## 1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- 原則として、S&P500配当貴族指数構成銘柄について、指数構成比率に応じて投資を行い、株式についてはS&P500配当貴族指数の値動きに連動する投資成果を目指します。
- 為替変動や市場全体のリスクの高まり、金利変動等を定量的に捉えて、為替ヘッジ比率を調整します。この調整により為替変動による影響の緩和や為替差益の獲得を目指します。原則として、為替ヘッジ比率は0%または約100%としますが、ヘッジ比率、定量分析の項目は将来変更される場合があります。
- 外国為替予約取引等の運用にあたっては、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。

## 2 運用状況の振り返り

- 多くの運用期間において、カテゴリ平均や参考指数であるS&P500配当貴族指数(配当込み、円換算ベース)を下回る投資成果となりました。
- 多くの期間で対円で米ドル高となる中、同一カテゴリに分類されるファンドの多くが為替ヘッジをせず運用している一方、対円でアクティブに為替ヘッジを行ったことなどが、多くの期間でカテゴリ平均や参考指数のリターンを下回った主な要因となりました。
- なお、株式部分は参考指数に連動する投資成果を目指した運用を行っていますが、直近2年程度では為替アクティブヘッジ戦略の運用成果に加え、大型成長株が優位な環境下、同一カテゴリ内では大型成長株に投資するファンドに対してパフォーマンスが相対的に劣化したことなどもカテゴリ平均を下回る要因となりました。

## 3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 為替アクティブヘッジ戦略の有効性を検証し、当該戦略の改善や他アクティブヘッジ戦略への変更を含めて検討を行った結果、当ファンドは市場局面ごとに為替ヘッジ比率の調整を行う為替アクティブヘッジを行うファンドから、常時為替ヘッジを行うインデックスファンドへ変更することがお客さまにとって望ましいと判断致しました。書面決議の結果、2025年8月26日から変更を予定しています。なお、為替アクティブヘッジにかかる外国為替予約取引等の運用の指図の権限をシティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドに委託していますが、為替ヘッジ手法の変更に伴い当該委託を終了し、弊社にて為替ヘッジを行うこととします。
- 為替ヘッジ手法の変更とともに信託報酬率(税込、年率)を1.375%から0.550%へ引き下げる予定です。なお、当該変更に加え、ファンド名称やNISA制度(成長投資枠)の要件を満たすための変更についても実施予定です。詳しくは[こちら](#)をご参照ください。

### パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、外国株式・米国型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンや参考指数であるS&P500配当貴族指数(配当込み、円換算ベース)を多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJ 米国配当成長株ファンド<為替アクティブヘッジ>	2013/12/09	43	1.8	4.5	13.4	6.6	7.9	1.39
外国株式・米国型 カテゴリ平均			2.7	12.6	22.0	11.1	12.5	1.11
S & P 5 0 0 配当貴族指数(配当込み、円換算ベース)			0.0	10.6	20.9	11.5	13.2	

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※外国株式・米国型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売上の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※S&P500配当貴族指数(配当込み、円換算ベース)は、外国株式市場の値動きをご説明するために記載しており、当ファンドの参考指数です。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

# 06 外国株式・米国型(円ヘッジ)

対象ファンド数 当社8ファンド/業界全体69ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド8本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
▲1.2	0.7	11.4	6.9	1.29

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

米国の株式を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。また、原則として日本円以外の通貨は為替ヘッジを行う。このカテゴリに分類されるファンドは、カナダの株式に一部のエクスポージャーを持つこともある。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	MAXIS NYダウ上場投信(為替ヘッジあり)	2023/03/09	26	—	■
2	MAXIS ナスダック100上場投信(為替ヘッジあり)	2021/02/24	85	—	■
3	MAXIS 米国株式(S&P500)上場投信(為替ヘッジあり)	2021/02/24	426	—	■
4	NYダウ・インデックスファンド(為替ヘッジあり)	2017/04/24	48	—	■

### ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	次世代米国代表株ファンド(為替ヘッジあり)(愛称:メジャー・リーダー(ヘッジあり))	2016/12/07	13	—	■
2	米国IPOニュースステージ・ファンド<為替ヘッジあり>(資産成長型)	2019/11/15	53	—	■
3	米国IPOニュースステージ・ファンド<為替ヘッジあり>(年2回決算型)	2019/11/15	16	—	■
4	三菱UFJ NASDAQオープン Aコース	1996/08/01	86	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・米国型(円ヘッジ)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

# 07 外国株式・新興国型・グローバル

対象ファンド数 当社9ファンド／業界全体104ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド9本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。  
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
6.0	6.6	14.0	4.8	1.34

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

アジア、中南米、欧州新興国、中東、アフリカなどの複数の新興国地域の株式を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。このカテゴリに分類されるファンドは地域分散が十分であり、単一国または特定の地域(サブリージョン)のみへ投資するファンドは、外国株式・単一国/地域に分類される。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS Slim 新興国株式インデックス	2017/07/31	1,907	—	■
2	eMAXIS 新興国株式インデックス	2009/10/28	406	—	■
3	新興国株式インデックスオープン	2010/06/21	16	—	■
4	新興国株式インデックス・オープン(ラップ向け)	2019/12/16	169	—	■
5	つみたて新興国株式	2017/08/16	441	—	■
6	三菱UFJ DC 新興国株式インデックスファンド	2009/12/11	737	—	■
7	ラップ向けインデックス f 新興国株式	2021/04/16	47	—	■

### ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	エマージング株式オープン	2007/12/14	68	—	■
2	テンプレトン新興国小型株ファンド(愛称:ライジング・フォース)	2017/08/31	23	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・新興国型・グローバルカテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

# 08 外国株式・新興国型・アジア

対象ファンド数 当社1ファンド/業界全体25ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド1本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。  
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
3.5	4.5	13.1	4.3	2.20

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

アジアの新興国の株式を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。このカテゴリに分類されるファンドは地域内での分散が十分であり、単一国または特定の地域(サブリージョン)のみへ投資するファンドは、外国株式・単一国/地域に分類される。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS 日経アジア300インベスタブル・インデックス	2018/01/26	23	—	■

### ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・新興国型・アジアカテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

# 09 外国株式・中国圏型

対象ファンド数 当社2ファンド／業界全体39ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド2本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。  
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト (%)
過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	
18.9	0.8	5.7	2.5	1.92

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

中国、香港、台湾の新興国の株式を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。このカテゴリに分類されるファンドは中国、香港、台湾の3市場から大きな収益を得ている、またはそれらの市場と密接なビジネス関係を持つ企業にもある程度投資することがある。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
1	MAXIS HuaAn中国株式(上海180A株)上場投信	2019/06/10	12	—	■

### ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
1	三菱UFJチャイナオープン	1996/10/01	53	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。  
各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・中国圏型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

# 10 外国株式・インド型

対象ファンド数 当社1ファンド/業界全体51ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド1本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
0.1	12.5	26.3	8.4	2.13

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

インドの株式を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS インド株式インデックス	2024/02/22	245	—	■

### ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・インド型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

# 11 外国株式・特定テーマ/セクター型

対象ファンド数 当社43ファンド/業界全体384ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド43本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド2本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
0.1	4.6	16.5	6.6	1.79

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

ある特定の産業や業種、セクター、テーマなどに関連した世界の株式を主な投資対象とする。原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。このカテゴリに分類されるファンドは、分散されず特定の産業や業種に集中投資する傾向にあるため、市場全体の銘柄が投資対象となっている指数と比較すると、金利、為替、景気の変動などの特定のマクロ経済の影響を受けやすい。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS Neo AIテクノロジー	2024/09/19	50	—	■
2	eMAXIS Neo 遺伝子工学	2018/08/06	14	—	■
3	eMAXIS Neo ウェアラブル	2019/05/28	10	—	■
4	eMAXIS Neo 宇宙開発	2018/08/06	119	—	■
5	eMAXIS Neo クリーンテック	2021/05/07	15	—	■
6	eMAXIS Neo コミュニケーションDX	2022/03/04	4	—	■
7	eMAXIS Neo 自動運転	2019/05/28	86	—	■
8	eMAXIS Neo 水素エコノミー	2022/03/04	11	—	■
9	eMAXIS Neo 電気自動車	2021/05/07	24	—	■
10	eMAXIS Neo ドローン	2018/12/03	18	—	■
11	eMAXIS Neo ナノテクノロジー	2018/12/03	20	—	■
12	eMAXIS Neo バーチャルリアリティ	2018/12/03	72	—	■
13	eMAXIS Neo フィンテック	2019/05/28	20	—	■
14	eMAXIS Neo ロボット	2018/08/06	22	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・特定テーマ/セクター型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

## ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
1	GRANNEXT エネルギー	2021/01/19	77	—	■
2	GRANNEXT テクノロジー	2021/01/19	158	—	■
3	GRANNEXT フィナンシャルズ	2024/05/17	83	—	■
4	GRANNEXT フード	2021/01/19	37	—	■
5	GRANNEXT ヘルスサイエンス	2021/01/19	71	—	■
6	GRANNEXT モビリティ	2021/01/19	60	—	■
7	グリーン・テクノロジー株式ファンド(為替ヘッジあり)(愛称:グリーン革命)	2021/06/01	22	—	■
8	グリーン・テクノロジー株式ファンド(為替ヘッジなし)(愛称:グリーン革命)	2021/06/01	26	—	■
9	グローバル・スマート・イノベーション・オープン(年1回決算型)(愛称:iシフト)	2015/12/16	140	—	■
10	グローバル・スマート・イノベーション・オープン(年1回決算型)為替ヘッジあり(愛称:iシフト(ヘッジあり))	2017/03/03	12	—	■
11	グローバル・スマート・イノベーション・オープン(年2回決算型)(愛称:iシフト)	2015/12/16	219	—	■
12	グローバル・スマート・イノベーション・オープン(年2回決算型)為替ヘッジあり(愛称:iシフト(ヘッジあり))	2017/03/03	25	—	■
13	グローバル・ヘルスケア&バイオ・オープン Aコース(為替ヘッジあり)(愛称:健太)	2000/07/28	15	—	■
14	グローバル・ヘルスケア&バイオ・オープン Bコース(為替ヘッジなし)(愛称:健太)	2000/07/28	89	—	■
15	グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド(愛称:健次)	2004/02/27	2,380	—	■
16	グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド(為替ヘッジあり)(愛称:健次(ヘッジあり))	2016/11/25	37	—	■
17	サイバーセキュリティ株式オープン<3ヵ月決算型>(為替ヘッジなし)	2025/02/20	2	—	■
18	サイバーセキュリティ株式オープン<隔月決算型>(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	2024/03/28	1	—	■
19	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジあり)	2017/07/13	508	—	■
20	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型	2021/01/21	60	—	■
21	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし)	2017/07/13	3,106	—	■
22	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型	2021/01/21	534	—	■
23	世界資源株ファンド	2006/01/20	28	—	■
24	世界メディカル関連株式オープン(愛称:医療革新)	2014/09/08	108	—	■
25	米国エネルギーMLPオープン(毎月決算型)為替ヘッジあり(愛称:エネルギー・ラッシュ)	2013/06/28	18	●	■
26	米国エネルギーMLPオープン(毎月決算型)為替ヘッジなし(愛称:エネルギー・ラッシュ)	2013/06/28	134	●	■
27	三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド(愛称:ブルーゴールド)	2007/07/27	47	—	■
28	ワールド・ビューティー・オープン(為替ヘッジあり)	2017/07/31	23	—	■
29	ワールド・ビューティー・オープン(為替ヘッジなし)	2017/07/31	167	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。  
各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・特定テーマ/セクター型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

## 米国エネルギーMLPオープン(毎月決算型) 為替ヘッジあり/為替ヘッジなし<愛称: エネルギー・ラッシュ>

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

<https://www.am.mufg.jp/fund/148114.html> / <https://www.am.mufg.jp/fund/148115.html>

### 1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- USエネルギーMLPファンド(以下、USMLPF)への投資を通じて、主にエネルギーや天然資源に関連するMLP等\*1\*2に投資を行います。
  - USMLPFは、米ドル建のケイマン籍投資信託証券で、ニューバーガー・バーマン・インベストメント・アドバイザーズ・エルエルシーが運用を行います。
  - 「為替ヘッジあり」は、外貨建(米ドル建)資産について、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。「為替ヘッジなし」は、外貨建(米ドル建)資産について、原則として為替ヘッジを行いません。
    - \*1 MLP等には、MLPの出資持分のほか、MLPと実質的に同様の経済的な特徴を有するLLC(リミテッド・ライアビリティ・カンパニー)の出資持分、MLPに投資することにより主たる収益を得る企業の株式、およびMLPに関連するその他の証券を含みます。
    - \*2 MLP(マスター・リミテッド・パートナーシップ)は、米国で行われている共同投資事業形態のひとつであり、その出資持分が米国の金融商品取引所等で取引されています。
- ※エネルギーや天然資源関連以外のMLP等にも投資を行う場合があります。

### 2 運用状況の振り返り

- 当ファンドの所属カテゴリには特定のテーマに注目した多様な商品が含まれており、カテゴリ平均対比については商品性による影響が大きいと考えるものの、当ファンドの運用において以下の課題を認識しております。
- 2021年後半より、MLPの課税強化などを背景に、課税強化の対象となる銘柄の売却を行った一方、再生可能エネルギー需要の増加予想や安定的なキャッシュフローへの期待などから、総合公益事業や再生可能エネルギー系発電事業者関連銘柄などの組み入れを行いました。その結果、2022年以降の米国金利が上昇する局面で、資金調達コストの上昇などが意識され、同業種関連銘柄の下落などがマイナスに影響しました。

### 3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 再生可能エネルギー需要の増加予想や、エネルギー供給会社との長期契約などを背景としたキャッシュフローの安定性など、総合公益事業や再生可能エネルギー系発電事業者関連銘柄は引き続き魅力的な投資対象であるとするものの、業種リスクが過剰になっていた点から、適切なリスク管理が必要と考えています。
- 業種リスクについて適切にコントロールする運用改善を図る予定です。また、2021年以降は組入銘柄の入れ替えなどからファンド全体のリスクが高く推移しているため、ファンド全体のリスク水準についても見直しを検討しております。運用状況につき注意深くモニタリングしつつ、投資成果の向上に向けた取り組みを継続してまいります。

#### パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、外国株式・特定テーマ/セクター型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを過去1年や過去5年では上回っていますが、過去10年や設定来などでは下回っている状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
米国エネルギーMLPオープン(毎月決算型)為替ヘッジあり	2013/06/28	18	20.0	3.1	25.4	▲2.4	▲1.7	2.50
米国エネルギーMLPオープン(毎月決算型)為替ヘッジなし	2013/06/28	134	24.6	15.3	37.4	1.7	3.5	2.50
外国株式・特定テーマ/セクター型 カテゴリ平均			0.1	4.6	16.5	6.6	9.3	1.79

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮していません。

※外国株式・特定テーマ/セクター型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

# 12 株式・その他

対象ファンド数 当社4ファンド／業界全体146ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド4本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。  
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
1.2	10.6	20.1	7.6	1.97

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

株式を主な投資対象とするものの、他の株式型のモーニングスター・カテゴリに該当しないファンドが分類される。原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象の株式に投資する。例として、為替オーバーレイやカバードコールなど様々な投資戦略を同時に活用しているファンドなどが含まれる。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

### ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	米国株式シグナルチェンジ戦略ファンド(為替ヘッジあり)(愛称:クォーターバック)	2019/11/29	40	—	■
2	米国株式シグナルチェンジ戦略ファンド(為替ヘッジなし)(愛称:クォーターバック)	2019/11/29	161	—	■
3	三菱UFJ Jリート不動産株ファンド<Wプレミアム>(毎月決算型)(愛称:メトロポリス)	2015/05/08	16	—	■
4	三菱UFJ Jリート不動産株ファンド<米ドル投資型>(3ヵ月決算型)(愛称:メトロポリス)	2015/05/08	8	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※株式・その他カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

# 13 外国REIT・世界型

対象ファンド数 当社14ファンド/業界全体110ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド14本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド3本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
3.4	2.5	14.3	4.2	1.09

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

日本を含む世界のREIT(不動産投資信託)を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象のREITに投資する。このカテゴリに分類されるファンドは主に北米、欧州、アジアの各地域の先進国に分散投資を行う。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS Slim 先進国リートインデックス	2019/10/31	338	—	■
2	eMAXIS 新興国リートインデックス	2013/11/18	38	—	■
3	eMAXIS 先進国リートインデックス(除く日本)	2009/10/28	169	—	■
4	三菱UFJ <DC>先進国REITインデックスファンド	2012/01/10	95	—	■
5	三菱UFJ 先進国リートインデックスファンド	2020/04/27	4	—	■
6	ラップ向けインデックス f 先進国リート	2021/04/16	30	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国REIT・世界型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

## ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	要改善 ファンド	当社HP
1	<DC>次世代REITオープン	2022/10/28	0.1	—	■
2	グローバル・リート・アクティブファンド(ラップ向け)	2020/12/18	175	—	■
3	次世代REITオープン<資産成長型>(為替ヘッジなし)	2020/02/14	127	—	■
4	次世代REITオープン<毎月決算型>(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型	2020/02/14	91	—	■
5	三菱UFJ 欧豪リートファンド(毎月決算型)	2007/06/13	18	—	■
6	ワールド・リート・オープン(1年決算型)	2008/11/04	7	●	■
7	ワールド・リート・オープン(資産成長型)〈愛称:ワールド・リートN〉	2013/12/11	9	●	■
8	ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2004/07/02	932	●	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。  
各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国REIT・世界型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

# ワールド・リート・オープン (毎月決算型) / (資産成長型) / (1年決算型)

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

<https://www.am.mufg.jp/fund/149024.html> / <https://www.am.mufg.jp/fund/148155.html> / <https://www.am.mufg.jp/fund/149027.html>

## 1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- 世界各国の上場不動産投資信託(リート)に分散投資します。
- ワールド・リート・オープン マザーファンドの資金配分および不動産投資信託証券の運用の指図に関する権限は、シービーアールイー・インベストメントマネジメント・リステッドリアルアセット・エルエルシー(以下、CBRE IM LRA)に委託します。
- CBRE IM LRAは、世界的な不動産サービス会社であるシービーアールイー・グループ(以下、CBREグループ)の不動産証券等を扱う運用会社です。同社は、CBREグループの世界各国に展開したネットワークから不動産/マーケット情報・リサーチ情報を最大限活用することができます。
- ポートフォリオの構築は、トップダウンで国や地域、セクター配分等を決定し、ボトムアップで個別銘柄を選定するという、2つのアプローチ(運用手法)の融合によって行います。
- 原則として、為替ヘッジは行いません。

## 2 運用状況の振り返り

- 前委託先であるモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・グループ(MSIMグループ)と2020年第1四半期から2022年にかけて行った運用プロセスの改善や運用体制再構築\*の結果、直近1年では住宅等の銘柄選択がマイナスに寄与したことなどでカテゴリ平均を下回ったものの、パフォーマンスは改善傾向にあり、2020年第1四半期までのパフォーマンス劣後からは改善傾向にあると考えています。

\*詳しくは「[2024年6月 定期レポート\(外国株式等\)](#)」をご参照ください。

## 3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 前委託先であるMSIMグループとは運用改善に向けた取り組みを継続してまいりましたが、同社より上場不動産投資信託の運用業務から撤退するとの申し出を受け、定量、定性面を考慮し2025年3月31日付で運用指図権限の委託先をCBRE IM LRAに変更しました。
- CBRE IM LRAは、CBREグループ傘下の運用会社として実物不動産の賃料・空室率など優位性のあるデータが活用可能な他、独自の定量モデルの活用、各地域(米国、ヨーロッパ、アジア太平洋)にポートフォリオマネジャーやアナリストを配置、計量分析者によるサポートなど、より精度の高い銘柄分析を行う運用体制があることなどが強みだと考えています。今後は、CBRE IM LRAと密にコミュニケーションを取り、パフォーマンスの改善を目指してまいります。

### パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、外国REIT・世界型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2004/07/02	932	2.5	1.4	13.0	1.9	4.8	1.72
ワールド・リート・オープン(1年決算型)	2008/11/04	7	2.6	1.4	13.1	1.9	7.4	1.73
ワールド・リート・オープン(資産成長型)	2013/12/11	9	2.6	1.4	13.1	1.9	4.9	1.72
外国REIT・世界型 カテゴリ平均			3.4	2.5	14.3	4.2	5.8	1.09

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しており、カテゴリ平均リターンは「ワールド・リート・オープン(毎月決算型)」の設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※外国REIT・世界型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示しているもので、当該ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当該ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

# 14 外国REIT・世界型(円ヘッジ)

対象ファンド数 当社4ファンド/業界全体29ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド4本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド2本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
0.0	▲8.0	3.7	1.2	1.17

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

日本を含む世界のREIT(不動産投資信託)を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象のREITに投資する。また、原則として日本円以外の通貨は為替ヘッジを行う。このカテゴリに分類されるファンドは主に北米、欧州、アジアの各地域の先進国に分散投資を行う。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

### ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	次世代REITオープン<資産成長型>(為替ヘッジあり)	2020/02/14	14	—	■
2	次世代REITオープン<毎月決算型>(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型	2020/02/14	9	—	■
3	ワールド・リート・オープン(資産成長型) 為替ヘッジあり(愛称:ワールド・リートヘッジN)	2017/09/12	0.5	●	■
4	ワールド・リート・オープン(毎月決算型) 為替ヘッジあり	2017/01/20	1	●	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国REIT・世界型(円ヘッジ) カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

## ワールド・リート・オープン

(毎月決算型) 為替ヘッジあり / (資産成長型) 為替ヘッジあり

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

<https://www.am.mufg.jp/fund/261493.html> / <https://www.am.mufg.jp/fund/261699.html>

### 1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- 世界各国の上場不動産投資信託(リート)に分散投資します。
- ワールド・リート・オープン マザーファンドの資金配分および不動産投資信託証券の運用の指図に関する権限は、シービーアールイー・インベストメント・マネジメント・リステッドリアルアセット・エルエルシー(以下、CBRE IM LRA)に委託します。
- CBRE IM LRAは、世界的な不動産サービス会社であるシービーアールイー・グループ(以下、CBREグループ)の不動産証券等を扱う運用会社です。同社は、CBREグループの世界各国に展開したネットワークから不動産/マーケット情報・リサーチ情報を最大限活用することができます。
- ポートフォリオの構築は、トップダウンで国や地域、セクター配分等を決定し、ボトムアップで個別銘柄を選定するという、2つのアプローチ(運用手法)の融合によって行います。
- 原則として、為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。

### 2 運用状況の振り返り

- 前委託先であるモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・グループ(MSIMグループ)と2020年第1四半期から2022年にかけて行った運用プロセスの改善や運用体制再構築\*の結果、直近1年では住宅等の銘柄選択がマイナスに寄与したことなどでカテゴリ平均を下回ったものの、パフォーマンスは改善傾向にあり、2020年第1四半期までのパフォーマンス劣後からは改善傾向にあると考えています。

\*詳しくは「[2024年6月 定期レポート\(外国株式等\)](#)」をご参照ください。

### 3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 前委託先であるMSIMグループとは運用改善に向けた取り組みを継続してまいりましたが、同社より上場不動産投資信託の運用業務から撤退するとの申し出を受け、定量、定性面を考慮し2025年3月31日付で運用指図権限の委託先をCBRE IM LRAに変更しました。
- CBRE IM LRAは、CBREグループ傘下の運用会社として実物不動産の賃料・空室率など優位性のあるデータが活用可能な他、独自の定量モデルの活用、各地域(米国、ヨーロッパ、アジア太平洋)にポートフォリオマネジャーやアナリストを配置、計量分析者によるサポートなど、より精度の高い銘柄分析を行う運用体制があることなどが強みだと考えています。今後は、CBRE IM LRAと密にコミュニケーションを取り、パフォーマンスの改善を目指してまいります。

#### パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、外国REIT・世界型(円ヘッジ)カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
ワールド・リート・オープン(毎月決算型)為替ヘッジあり	2017/01/20	1	▲1.2	▲8.0	3.7	—	▲2.1	2.06
ワールド・リート・オープン(資産成長型)為替ヘッジあり	2017/09/12	0.5	▲1.3	▲8.0	3.7	—	▲2.3	2.00
外国REIT・世界型(円ヘッジ) カテゴリ平均			0.0	▲8.0	3.7	1.2	0.6	1.17

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しており、カテゴリ平均リターンは「ワールド・リート・オープン(毎月決算型)為替ヘッジあり」の設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※外国REIT・世界型(円ヘッジ)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

# 15 外国REIT・米国型

対象ファンド数 当社1ファンド／業界全体31ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド1本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。  
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
5.5	4.1	15.8	5.9	1.41

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

米国のREIT(不動産投資信託)を主な投資対象とし、原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象のREITに投資する。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS 米国リートインデックス	2016/01/29	30	—	■

### ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国REIT・米国型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

# 16 外国REIT・特定地域/国型

対象ファンド数 当社6ファンド/業界全体34ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド6本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド2本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
▲2.4	▲0.7	11.8	3.8	1.72

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

他のモーニングスター・カテゴリには分類されない特定の国や地域のREITを主な投資対象とする。原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象のREITに投資する。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	eMAXIS 欧州リートインデックス	2016/01/29	4	—	■
2	eMAXIS 豪州リートインデックス	2016/01/29	10	—	■
3	オーストラリア・リート・オープン(毎月決算型)	2004/11/19	21	—	■

### ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	アジア・パシフィック・セレクト・リート・ファンド(毎月決算型)(愛称:グッド・ロケーション)	2015/07/31	23	—	■
2	国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型)円コース(毎月決算型)	2013/09/20	10	●	■
3	国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型)為替ヘッジなしコース(毎月決算型)	2013/09/20	52	●	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国REIT・特定地域/国型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

## 国際 アジア・リート・ファンド (通貨選択型) 円コース (毎月決算型) / 為替ヘッジなしコース (毎月決算型)

以下URL (当社ホームページ) の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書 (交付目論見書) および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

<https://www.am.mufg.jp/fund/148120.html> / <https://www.am.mufg.jp/fund/148119.html>

### 1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- アジア・リート・マスター・ファンド (ケイマン籍投資信託証券で、イーストスプリング・インベストメンツ (シンガポール) リミテッド (以下、イースト・スプリング社) が運用を行います。) への投資を通じて、主として日本を除くアジア諸国・地域の金融商品取引所に上場 (これに準ずるものを含みます。) している不動産投資信託 (リート) 等に投資を行います。また、マネー・プール マザーファンドへの投資も行います。
  - 不動産投資信託 (リート) 等の安定したインカムゲインの確保と、値上がり益の獲得を目指します。
  - 円コースは、原則として原資産 (投資を行うリート等) 通貨売り / 円買いの為替取引により対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。為替ヘッジなしコースは、原則として原資産通貨について為替取引を行いません。
- ※当ファンドは通貨選択型投資信託です。通貨選択型投資信託における収益に関する説明、運用の仕組み、収益又は損失の関係、販売手数料に関する事項の詳細は投資信託説明書 (交付目論見書) をご確認ください。

### 2 運用状況の振り返り

- 2021年までに運用パフォーマンス向上のために取り組んだ運用改善の結果、2023年4月から2024年5月頃にかけては業績等が市場で評価されやすい投資環境下、個別銘柄の選択効果がプラスに寄与しました。しかしながらその後、バリュー回帰の流れや金利見通しが大きく変動する局面で、再度、投資先ファンドのパフォーマンスは軟調に推移しました。
- 当ファンドの所属カテゴリは特定の地域/国にフォーカスしたファンド、あるいは為替ヘッジの有無が異なるファンドが混在しており、円コースについては、対円で為替ヘッジを行った結果、カテゴリ平均リターンを多くの期間で下回りました。

### 3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 投資先ファンドの運用会社であるイースト・スプリング社と協議を重ね、運用パフォーマンス向上のため以下のような改善への取り組みを実施してまいりました。
  - ・2020年度第2四半期から第3四半期：割安度への過度な偏りを見直し、グロース性指標も考慮。
  - ・2021年度第3四半期：運用主担当者が交代。それに加えて、トータルリターンの最大化を図るため、株式運用部門において従来運用を担当していたインカムチームとグロースチームを統合し、より多面的な視点を導入。
  - ・2024年度第4四半期：ファンダメンタルズ分析を引き続き軸に据えつつ、短期的な市況変動への対応として、クオンツ分析\*も活用し機動的なポジション調整を行うことで、市況変動への柔軟性を高める。 (\*データを数理統計的に分析すること)
- 引き続き、運用状況につき注意深くモニタリングしつつ、運用クオリティの向上に向けた取り組みを継続してまいります。

#### パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、外国REIT・特定地域/国型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン (%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
円コース (毎月決算型)	2013/09/20	10	▲1.2	▲11.4	▲3.4	▲2.0	▲0.7	2.14
為替ヘッジなしコース (毎月決算型)	2013/09/20	52	2.5	▲0.9	7.0	3.0	5.1	2.14
外国REIT・特定地域/国型 カテゴリ平均			▲2.4	▲0.7	11.8	3.8	6.0	1.72

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額 (原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く) より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※外国REIT・特定地域/国型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

# 17 REIT・その他

対象ファンド数 当社2ファンド／業界全体35ファンド

## カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド2本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。  
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

## カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
▲2.6	3.6	13.8	4.0	1.80

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

### カテゴリの定義

日本を含むREITを主な投資対象とするものの、他のREIT型のモーニングスター・カテゴリに該当しないファンドが分類される。原則として純資産総額の75%以上を主な投資対象のREITに投資する。例として、為替オーバーレイやカバードコールなど様々な投資戦略を同時に活用しているファンドなどが含まれる。

## 当社ファンド一覧

### ◇インデックスファンド

当カテゴリに属する当社ファンドは該当なし

### ◇アクティブファンド(インデックスファンド以外のファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	要改善ファンド	当社HP
1	国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型) インドネシア・ルピアコース(毎月決算型)	2013/09/20	5	—	■
2	国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型) インド・ルピアコース(毎月決算型)	2013/09/20	150	—	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※REIT・その他カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

# 当資料に関するご留意事項等

## 当資料に関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、三菱UFJアセットマネジメントのプロダクトガバナンス活動に関して当社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料は勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。販売会社は当社ホームページでご確認いただけます。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。

## 当資料で使用する指数について

- MSCIコクサイ・インデックス:MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

## モーニングスター・カテゴリについて

©2025 Morningstar. All Rights Reserved. ここに含まれる情報は、(1) Morningstarおよび/またはその関連会社またはコンテンツ提供者の専有財産であり、(2) 複製、改作または配布してはならず、(3) 正確性、完全性または適時性を保証するものではなく、(4) 投資、税務、法務あるいはその他を問わず、いかなる助言を構成するものではありません。ユーザーは、この情報の使用が、適用されるすべての法律、規制、および制限に準拠していることを確認する責任を単独で負います。Morningstarおよびそのコンテンツ提供者のいずれも、この情報の使用から生ずるいかなる損害または損失についても責任を負いません。過去の実績は将来の結果を保証するものではありません。

## 設定・運用

### 三菱UFJアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会／一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

#### 三菱UFJアセットマネジメントのお問い合わせ先

お客さま専用フリーダイヤル **0120-151034** ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>  
(受付時間／営業日の9:00～17:00)